

**博士課程教育リーディングプログラム
平成28年度プログラム実施状況報告書**

採択年度	平成24年度		
機関名	金沢大学	全体責任者（学長）	山崎 光悦
類型	複合領域型（多文化共生社会）	プログラム責任者	中村 慎一
整理番号	L01	プログラムコーディネーター	鏡味 治也
プログラム名称	文化資源マネージャー養成プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムが取り組むのは、「多文化共生」をさらに一步進めた「多文化共用」という将来的課題である。文化の違いも人類全体で共有する資源として、その価値と有用性を評価する姿勢を涵養することがグローバル社会での喫緊の課題であり、「多文化共生」の理念を浸透させるために、実社会へのコミットメントを継続できるリーダーの要請とネットワーク形成も社会的課題である。金沢大学は「東アジアの知の拠点」として、また「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、今後世界の中心となるアジアを主眼に置いた人材育成及び教育研究機能の強化に努め、平成24年4月には「グローバル人材育成推進機構」、「先端科学・イノベーション推進機構」、「国際機構」を設置した。本プログラムは本学のグローバル人材育成のための中心的プログラムのひとつであり、国際的教育研究拠点形成の中核事業のひとつでもある。

2. プログラムの進捗状況

平成28年度は4期生8名のほかジョージアからの日本政府国費留学生1名がプログラムに参加し、1年次のプログラムを受講した。1期生は5名が4年次に進学（1名は企業運営コンサルタントに就職）、2期生は7名が修士学位を取得しうち5名が3年次に進級した。3期生は6名全員が2年次に進んだ。

平成28年度事業では、2期生が主体となりバンドン工科大学で「国際ワークショップ」を企画運営し、4期生もこれに参加した。4期生はインドネシアとベトナムで海外研修を行い、1期生、3期生も国内外においてフィールド調査を積極的に行い、これらの報告をニューズレターや公式HPで発信した。このニューズレターは平成28年度末までに11号まで刊行した。2期生および3期生のうちそれぞれ1名が学振の特別研究員に採用内定を受けた。平成29年度選抜においては、留学生4人、日本人4人を受け入れ、前年度に引き続き募集定員を満たすことができた。